

あくせす news

第 207 号
2019年9月17日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす



未だ残暑厳しい日が続いておりますが、「中秋の名月（9月13日）」を過ぎててもなお澄んだ夜空に美しく見えるお月さまは、涼しい秋が着実に近づいていることを教えてくれています。
先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただきありがとうございます。
引き続きより一層のご利用・ご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

お知らせ

大腸肛門病センター 開設 5 周年記念
『おなかとおしりの健康を考える会』
～ようこそ！開うんスポットへ～

【日時】10月5日（土）13:30～15:30
【場所】呉市医師会館 5階講堂・4階視聴覚室

講演 I
「大腸肛門病センター
これまでの歩みと未来に向かって」
病院長/大腸肛門病センター センター長
中塚 博文

講演 II
「おなかとおしりの健康を考えよう！」
大腸肛門病センター 副センター長
藤森 正彦

先生のお知り合いや患者さん、従業員の方などで
興味のある方がいらっしゃいましたら、
引き続きご案内の程よろしくお願いいたします。

関係医師懇談会のご案内

日時：2019年9月24日（火）
19:00～

場所：呉市医師会館 4階視聴覚室
演題：「当院での大腸 CT」
講師：医師会病院副院長/放射線科部長
大本 俊文 先生

当日は軽食（カレー）を準備して
多くの先生方のご参加を
お待ちしております。

ストーマリハビリテーション講習会 のご報告

私は以前よりストーマ外来などでストーマ（人工肛門・人工膀胱などの排泄口）に携っており、この度東京で4日間開催された「ストーマリハビリテーション講習会 リーダーシップコース」へ参加させていただきました。慣れない都会で宿泊先を間違える（片道1時間）というアクシデントに、はじめは心が折れましたが、講習会参加者は全員がストーマへの熱い思いを持っておられ、とても新鮮で有意義な時間を過ごすことができました。

講習会では、『診療報酬の相次ぐ改定に伴い、短い入院期間で在宅復帰を強いられる中、ストーマ保有者の高齢化、緩和ストーマ（切除不能進行がんなどによる消化管閉塞に対して症状緩和目的で造設される消化管ストーマ）の増加など、短い入院期間ではセルフケアを確立することが困難なケースも増加している。』と近年の動向と問題点についてお話がありました。そこで、私にできることは微力ではありますが、

①的確な術前のストーマサイトマーキング（患者さんが管理しやすい最も適した位置を決めること）で術前の生活に戻ることを容易にする。
②今後誰がケア提供者になるのかを術前からアセスメントし、退院先が訪問看護や施設等であれば直接ケアを見ていただいたり、ケア提供者が困らないようなケアを目指す。

ということに、これまで以上に努めて参りたいと思います。
これからもストーマ保有者の方が「いつもと同じ朝を迎え、そして夜がくる」「あたり前の場所で過ごせる」よう、全力でサポートして参ります。先生方の患者さんでストーマについて何かお困りの際には、ご紹介の程よろしくお願いいたします。

4階病棟看護師 和田 奈津美

★8月1日～8月31日★ ※届出日数（地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く）

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数*	紹介外来患者数	医療相談患者数
121.7人	58%	16.1日	77人	123人



骨盤底筋弛緩訓練のための **バイオフィードバック** 機器

広島初

Myo Trac Infinity System

マイオトラック インフィニティ システム (Thought Technology 社) 導入



バイオフィードバック療法とは？

「意識にのぼらない情報を工学的な手段によって意識上にフィードバックすることにより、体内状態を意識的に調節することを可能にする技術や現象」をバイオフィードバックと呼び、それを応用した治療のこと。

《治療の適応疾患》

便失禁・尿失禁

骨盤底筋訓練は、初心者の場合腹筋の活動が強くなり十分な効果が得られない…

患者さん自身が画面を見ながら自分の力を確かめられ、筋肉の使い方の理解が深まる。筋電図なので純粋な力が測れる。

機能性便排出障害

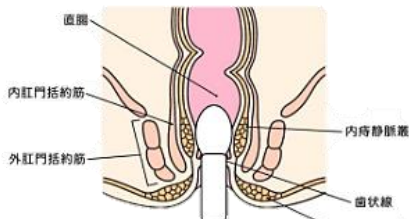
下剤などを使用しても症状のコントロールができない…

自分の肛門括約筋の動きを見ながら上手に緩める方法を習得する訓練ができる。

《使用方法》



Myo Trac Infinity



肛門に機械を挿入する



PC画面に表示される波形に合わせて肛門に力を入れたり緩めたりする

《ここがすごい！》

① **小型軽量**筋電測定器



② PC画面上に**リアルタイム**で計測結果を表示できる

③ 機能検査だけでなく、治療としての**バイオフィードバック療法**に使用可能

④ **2画面**あることで、1つは医療側、もう1つは患者側で見ることができる



バイオフィードバック療法の効果はあるといわれているものの、まだ日本では保険収載されていない治療です。しかし、機能性便秘診療ガイドラインや便失禁診療ガイドラインにも載っており、今後治療が行われることが決定しており、当科も参加していきます。また患者さんにとってはリハビリの一環であり、合併症もほぼありません。

便失禁・便秘などでお困りの患者さんや尿失禁で骨盤底筋訓練が良くわからないという患者さんがおられましたら、ぜひ一度ご紹介ください。

大腸肛門病センター 副センター長 藤森 正彦

- 外来: 毎週水曜日 午後
- 所要時間: 15~20分
- 予約受付先: あくせす TEL32-7576

呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 **あくせす**

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 中塚 博文 室長 中間 千穂 事務 中野 浩美 事務 石坂 梨恵
 FAX (0823) 32-7507 MSW 森下 香織 MSW 萩山 直子 MSW 菅原 淳子 MSW 巻幡 成実